

ブラジル投資フォーラム 2019 (2019/10/10 於 ; WTC サンパウロ)

エルネスト・アラウージョ外務大臣

ジャイール・ボルソナロ共和国大統領、パウロ・ゲデス大臣、オニックス・ロレンツォーニ官房長官、米州開発銀行 (IDB) 総裁、国家輸出振興庁 (Apex) 総裁、経済協力開発機構 (OECD) 代表、その他、知事、将官、大使、ここに出席の全ての方々、紳士淑女の皆様、今回のブラジル投資フォーラムに参加し、ジャイール・ボルソナロ大統領の意欲的かつ果敢な改革のアジェンダに貢献できることは私の非常な喜びであり名誉とするところです。

この改革アジェンダの大部分は、競争力の増強と、生産性の向上、雇用の創出、全ての人々にビジネスチャンスをもたらすための国外との関係に足場を置いたもので、より先進的な技術を獲得し、また、公共政策モデルの枠組みをより進歩させ、かつ、ブラジルを国際的なバリューチェーンに完全に組み入れるために我が国の経済の開放が必要とされています。

そのためには、パートナーシップ、それも、尋常ならざるパートナーシップを必要としています。昨日の夕食会でパウロ・ゲデス大臣と IDB 総裁が歓談したように新たなアイデアを生み出し続ける IDB があり、皆様全員、全ての投資家と共同で取り組むという新たなアイデアも生まれています。外務省は、新しいブラジルを建設する一員となれたことを誇りとしており、この改革プロジェクトの 22 本の柱になっている 22 省を代表して出席している私たちはいずれも、まさにそれを誇りと感じています。今申したように、ブラジル政府からは 10 人の閣僚が出席しており、これは 22 省のほぼ半分に相当します。このことについて私は、このフォーラム及び調整の取り組みを、投資家を通じた民間部門との交流と対話という一朝一夕にここに掲げる水準のコミットメントが形成され得ない課題に貢献すべく私たちが取り組むという、特筆すべき重要なメッセージであると考えています。

外務省の外郭団体である Apex は、外務省にとどまらず経済省と農務省、その他の様々な政府機関、民間セクターの組織から人材を登用して評議会を組織しており、この共同作業、政府の調整の取り組みのシンボルのひとつとして、国際的に参画すること、そして私たちであることに自ら誇りを持つ政策に重要な役割を担う実行組織です。また別の機会には、経済的な自由と政治的な自由が共存すべきであると明確に示もしました。私たちは、この国を愛するという軸が最終的には、ブラジルを前に進ませる車輪を回すと確信しています。以前の政権では、残念ながら改革を試みようとする人はいれば、特定の権力構造の強化だけを目指した人もおり、また、改革を試みるもそこに信念を持っていなかった人たちがいました。私は彼らが民衆を置き去りにした自由主義を試みたと考えています。そして今回初めて私たちは、民衆とともに自由主義を推進しようとしているのです。過去には、自由のない自由主義、ブラジルの権力の循環構造にメスを入れることのない形だけの自由主義、時代遅れのシステムに挑もうとしない自由主義がありましたが、私たちは今、挑戦しています。

こうして私たちは、通商を伴った貿易政策、インフラを整備するインフラ政策、教育を伴う教育政策、環境を保全する環境政策、技術と呼び込む技術政策を持つことになり、ジャイ

ル・ボルソナロ大統領のこれらのプロジェクトに対して民衆が参画することになるのです。なぜなら私たちは、グローバル・バリューチェーンと連携し、しかも同じくブラジルの民衆のバリューに結びついているからです。こうした国内外との新しい連携・参画の成果は既に、メルコスールが2つの広域経済圏、すなわち欧州連合（EU）と欧州自由貿易連合（EFTA）との貿易協定での合意、生産的で有益なアメリカとの関係の緊密化、その他、大きな可能性を秘めつつもこれまで未開拓だった日本やイスラエルとの、同様に非常に生産的なパートナーシップ、中国やアラブ諸国のようなまもなく訪問が予定されているその他の重要なパートナーとの関係の緊密化、言い換えるなら地域への統合、南米、ラテンアメリカがかつて本来の理念として掲げていながら放棄したように思われるオープンな哲学に対する統合といった国際面で現れています。市場経済と民主主義を結びつけるビジョン、言い換えると、ブラジルに対して私たちが構築しようとしているのと同じプロジェクトを、地域全体のプロジェクトにすることを希望しているのです。

経済的自由と政治的自由。むしろブラジルは過去に例を見ないほどの開放を進めており、その範囲となる選択肢も過去と比肩すべくもない広さであり、こうした状況においてブラジルは、経済協力開発機構（OECD）への加盟プロセスに着手する準備ができており、このことは、私たちの活力と行動計画全体を後押ししています。

今回のブラジル投資フォーラムにおける議論と意見の交換は、ブラジル国民の利益に沿った結果をもたらすこの道をこれからも歩んでいくのに強く貢献するとの信念を持っており、また、より繁栄し、活力に満ち、あらゆる人に対してビジネス機会を提供すると同時に自身により誠実な国を生み出すことで、地域と世界に貢献できるものと確信しています。

パウロ・ゲデス経済大臣

大統領と関係者、招待者の皆様、お早うございます。

ブラジルは、3、40年にわたって、閉鎖的で独占的な経済、重要な経済に機能不全を生じさせた制御不能な状態で肥大した政府支出、ハイパーインフレ、対外債務のモラトリアム、最近の為替危機、高金利、高い税負担、精神病的課税マニア、さらに民主主義体制への腐敗と経済的な停滞に至る出来事を経験してきました。私たちは診断を行い、そして大統領は、より良い西側社会、西洋の文明社会に向かうべく改革に着手しました。すなわち、民主主義と市場です。

大統領は、まさに国内の政治慣行を一新するため、政治的圧力を生じさせることなく省を立ち上げ、高度に統合された作業チームを設立し、同様に新しい政策によって支援を受ける重要な改革の導入を進めています。ここで起きているのは、それぞれが独立した権力を持ち、それぞれにテリトリーがあり、部外者から見るとその危機は克服できないように思われるものの実際にはそのようなことはない、成熟した民主主義で、それぞれが持つ権力に応じてテリトリーの中で努力し、かつて私たちが信じていた道である開かれた社会、開かれた社会の活力の道をブラジル社会がトレースしつつあるということ、救われたのは後で私が言及

する経済的観点から私が重要と見做す改革で勝利を収めたことであり、むしろ私たちの観点から言えば私たちは8年にわたって停滞してきたメルコスールの貿易協定、20年にわたって停滞してきたEUとEFTAとの貿易協定で合意を見るという成功を収めました。現在、ブラジルはカナダと日本、韓国との協議に着手し、就任時から、自然の豊かさを人口そのものと国民自身の富につなげることに成功した「リファレンスと位置付けられた国々との関係の緊密化を図る」方針のもとアメリカとは全面的に協議を進めている段階で、大統領は常にこの彼我の差に注目し、ブラジルも自然の豊かさを持っているのになぜ豊かではないのか？と強調している。これほどの莫大な天然資源を有しているのにブラジルが依然として貧しいのはなぜでしょうか？そしてブラジルを襲っている経済的な機能障害、このあいさつで私は世界の投資家の方々に手短かに、昨日ブラジルは有償譲渡方式で利権が与えられる海底に眠る原油に関して5年に及んだ空転を終わらせて、連邦会計検査院（TCU）と暫定令（MP）、鉱山動力省（MME）の支援を受ける形で問題を解決したとここでコメントさせていただきたい。これら機関とは常に経済の開放に共同で取り組んでおり、エルネスト・アラウージョ外務大臣、テレーザ・クリスティーナ農務大臣、経済省が大統領の庇護のもと、ベント・アルブケルケ鉱山動力大臣と、独占状態を手放しつつあるペトロブラスの全面的な参加のもとに有償譲渡方式を承認し、エネルギーコストの引き下げへのショック療法を実施し、低廉なコストのエネルギーを基盤としたブラジルの再工業化、民営化、経済的自由に関する法律を通じた規制の緩和を進めており、2019年の目標に沿って民営化を進め、既に年末に至る前にその目標を達成するように、最初のウォームアップを始めた時点で既に、8年間で初めて官営銀行のレバレッジの引き下げ、民間の与信供与とキャッシュ・フロー、資本ストックが官営銀行を上回ったことすなわち、バブルでも一過性の景気浮揚でもなく持続的かつ健全な成長の端緒についたことが示されたのであり、過去30年で初めて再加速しつつある経済成長の中でインフレが低下する状況となり、この期間で最も低いインフレ率となり、しばらくの間取り組んできたように中銀は独立製の確保に舵を切り、また過去数年にわたって改善を進め、その結果として、ブラジルは歩き続けながらも誤った方向へと進んでいた国だったが大統領が組織を改善、ただし経済的観点からは未だ誤った方向を向いているというところです。

このようにして、民主主義は30年を通じてその持てる力に弾力性を高めてきましたが、最近ではベネズエラがそうであるように、ブラジルの様々な周辺国が経済を破壊して同一の法的モデルが麻痺していることが示され大統領がこの流れを逆行させることとなりましたが、私たちは現在、民主主義と分散化という題目を復活させる方向へと歩みに向け、民主主義と市場を私たちの進むべき道のガイドとして活用いたします。

我が国のパートナーでもある世界銀行は60年前、アメリカ大統領と親密な関係を築いたひとりのブラジルの大統領を通じて設立され、それ以来、市場を通じて富を分配すべきものとして私たちが活用する正真正銘の最良のリソース呼べる機関になっており、一方で東側世界、すなわち中国とロシア、社会主義の孤児たちは、いずれも国際市場の中へと飛び込み、

いずれもが、市場に身を置くことで極貧状況に陥ることから逃れようとしてきましたが、ブラジルはまさにその逆に、市場を閉ざして公共支出を肥大させ、しかも経済が停滞、そこで大統領は反動が極めて異例な形、競争的な民主主義で選挙で当選する秘訣と判断し、第4の権力は、マスコミを含め、何が起こったのかを理解するのに時間がかかり競合するソーシャル・ネットワークから攻撃を受けることにもなり、大統領は、100万ドル未満の選挙資金を投じて当選、記録的な短時間で改革を主導し、石油開発の新しいフロンティアの膠着状況を有償譲渡方式により打破し、リソースの分散化（ブラジルにより多くブラジルには少なく）に向けて連邦制の枠組みに対する合意を取り付けるところで、これには国会における新たな連立基盤から支持を受けており、その国会も現在は成熟し、上下両院に提出する改革はテーマ毎に連立する議員からの支持、社会民主主義による中道左派の30年を経て中道右派と理解される本来の連立基盤の支持を得、私たちは自由民主主義、それは保守的自由主義から全ての民主主義を糾合した方向へと舵を切り、それは、ブラジルの新たなダイナミズムであり、私たちは民主主義の拡大に努める一方で敗北者の主張には民主主義的な余地が縮小、まさに社会民主主義の余地が縮小しており、現在の彼らが確保している支持は有権者の50%未満、一方でブラジルの民主主義勢力は拡大しており、それはブラジル国民にとっては今ようやく、2つの政党が存在する状況なのであり、それは2本の足で歩んでいるからで、かかしのようには1本脚で飛び跳ねるのではないのです。想像していただきたい。共和党が存在せず民主党だけのアメリカ、労働党だけが存在して自由党が存在しなかったイギリス、ドイツ社会民主党（SPD）だけが存在してドイツキリスト教民主同盟が存在しないドイツ、そして、戦後の復興を成し遂げたドイツの自由民主党と日本の自由民主党、キューバ以上の貧困にあえいでいたチリの経済モデルを改革し現在では国民1人当たりGDPでブラジルの2倍に引き上げるようになったチリの奇跡におけるシカゴ・ボーイズなどが存在していなかった状態を。このようにイギリスでは、労働党のマーガレット・サッチャーのお陰で30年から40年を経て沈没することなく、アメリカでも自由主義のドナルド・レーガンがアメリカ全体の企業基盤を再構築したことで2桁に達するインフレと経済停滞から経済を回復させました。従って私たちは、国内の改革と民営化、経済の開放、石油の低廉化ショック、ファンド改革を加速させ、連邦制の枠組みでの合意に進んでおり、税制改革を推進し、大統領に対する政治的な求心力から改革は加速しており、私たちの政治的ビジョンは、バリューと原則、テーマを基準とするもので、ブラジルにおける新国家政策の扉を開こうとしている国会から支持を受けています。

このように我が国は、下降線をたどるインフレと自由民主主義の原則を施行するブラジル国内で取り組みが始まったこれらの改革の恩恵により長期の成長循環期にあり、私たちはここでもう少し、改革についてやや深掘りして話そうと思いますが、私は、世界的に一斉に退潮ムードでリハビリのためにクリニックに通わなんという状況下で、関係する省と何よりも国外の投資家との協力に向けてスタッフを割り当てあらゆる支援をしてくれた大統領に感謝したいと思います。ブラジルはまさにその逆で、リハビリのためのクリニックから退

院しようとしており、資源業界とエネルギー業界、石油業界、ガス業界における調査で新たな地平が切り開かれ、この投資フォーラム、すなわちその幕開けにおいて非常に好感を持って受け入れられるでしょう。

ご清聴ありがとうございました。

オニックス・ロレンツォーニ官房長官

皆様、お早うございます。

紳士淑女の皆様方がこれからご理解いただけるごとく、これまで以上に改革推進を私たちに任せいただいているジャイル・ボルソナロ大統領に感謝申し上げるとともに、とりわけ米州開発銀行（IDB）のルイス・アルベルト・モレーノ総裁と、2人力の活躍のテレザ・クリスチーナ大臣ら閣僚の方々、アマゾナス州のウィルソン・ミランダ知事、マット・グロッソ州のマウロ・メンデス知事、ロライマ州のアントニオ・デナリウム知事に、感謝申し上げます。出席いただいた国会議員の皆様、OECD のルドガー・シュークネヒト事務次長、輸出振興事業団（Apex-Brasil）の総裁であるセルジオ・セゴヴィア提督、外交ミッション代表者の方々、実業家及び投資家の方々。私にとり、今回皆様に我がブラジルの新たな方向性をプレゼンテーションさせていただく機会を得たことはこの上もない名誉とするところです。と申しますのも過去数10年、現政権に先立つブラジル政府は残念なことに異なる道を選び我が国が取り組むべき優先的課題にイデオロギー問題を掲げたからです。我々は大いに苦しめられ、ラテンアメリカは、あらゆるものに公共部門と民間部門の間に共和的精神がみじんもない関係で満たされた、権力に対するプロジェクトに頭がいっぱいで国家プロジェクトというものを決して持つことがなかった左派政権による生きた実験場になったのです。国家は、40省に13万人の管理職と職員、130社の公社と600社以上の企業への出資と、白象（多額の経費を浪費する機関）へと肥大化しました。この全ては、GDP比35%に達する税負担と同88%に達する公債費率に加えて、6万件にも及ぶ規制によってパウロ・ゲデス経済大臣を縛り付けています。私たちが引き継いだ遺産はそれだけに限らず、ブラジルの歴史的に最も高い水準の失業率、高い暴力犯罪発生率もありました。あらゆる人にとって朗報なのは、良いですかボルソナロ大統領、こうした時代が過去のものになったということです。誤りを恐れずに言うならば、このようなブラジルはもはや存在しませんし、では皆様、なぜそのようなことが起きたのでしょうか？ その理由はブラジル国民が社会政策を通じて、この国を自分たちの手に取り戻すこととし、彼らにノーを突き付けて決別することに決めたからです。ブラジルにおける改革プロセスを指揮するに当たってジャイル・メシアス・ボルソナロ大統領が選んだ道は、明確なメッセージです。すなわち、今この時代は変化を必要としており、それらは全て、ブラジル国民にとって大きな価値があり、非常に貴重なものだという事。このことは、真実なのです。選挙戦を通じて掲げられ、その後も政府の取り組みの中で大統領が度々言及し続ける基本原則、そして、確立された原則及び価値を守ることが、繁栄可能な社会の基本なのです。これらは全て緑と黄色に彩られた愛国心につながって

いるのであり、つまるところ、国家主義です。私たちは、ブラジル人に仕事と尊厳、現在も未来もある堅牢な経済を建設するのにブラジルとパートナーを組むために世界がやって来るという協力関係を欲しています。別の喜ばしい、しかし多くの場合に私たちが見たところイデオロギーの観点からブラジルのマスコミでは下段の記事扱いで隠蔽されるニュースに、ジャイル・ボルソナロ大統領が率いる現政権がまさに自ら課した務めを果たしているということがあります。すなわち、政府は国民に対して、憲法に基づいた立憲主義の政府、すなわち法の支配と、IDB 総裁が既に言及したような財政の責任、そして何より、友愛を提供しているのです。私たちは、引き継いだ束縛されたブラジルを、過去のものにしようとしています。

私たちはパラダイムを変え、この国の展開と国民の繁栄を乱すあらゆる問題に直面しています。これまで以上に強い信用を持ち、人々に配慮し、権利に民主的な状態を確立する新しい可能性を開かねばなりません。これは、地球上のどこであれ、いかなる人であれ、その命を価値の中心に据えるという明確な規定、すなわち自由を掲げる国なのです。新しい政府、新しい道がそこに存在するのです。自由な市場、価値、自由な世界に対してコミットメントする政府として、政権移行期間がスタートした時点から、OECD 加盟国にふさわしいガバナンスを行い、我が国も、ベストプラクティスを備えた国々のこの一員になれるよう歩んでゆきたいと希望しています。すなわち、公的なガバナンスを希求し、官民の関係を希求するということです。

ボルソナロ大統領がかつて発言し、その後も繰り返し述べているように、私たちは、ブラジルを解放し、我が国の市民の肩にのしかかる国家の負担をそぎ落とそうとしています。私たちは、省の数を削減して2万5,000の管理職及び役職、評議員を削減し、さらに、ブラジル国民と、ここで事業を展開する市民のひとりひとりの生活に占めるブラジル政府の規模と負担を削減しています。ブラジルでは、公的資産の売却に困難が発生する時代は終わりました。これは、ブラジル国民と、我が国の開発に対して私たちとともに歩む人たちに対して、ハードルを下げることを決定づける態度の政府だということです。私たちは既に、この場で言及したように、不正の撲滅とを合わせて世界的に見て史上財政能力最大規模の年金制度に対するてこ入れを一気に終わらせました。私たちは、長きにわたって放置してきた問題、かつ、投資を希望する人たちにとっては基本的な重要性を持つ問題として、今後10年で1兆リアル以上の歳出削減効果をもたらす可能性をブラジルにもたらしたのです。現在のブラジルは、法の支配に基づいた政府と合わせて、ブラジルに進出しようとする企業にとって投資に係わる経済の算出という予測可能性を確保し、上院で第2次表決が行われる11月22日以降、良いですかパウロ・ゲデス先生、ブラジルは本フォーラムを通じて明らかにされるように、あらゆる分野における圧倒的なビジネスチャンスを伴って、財政に対する観点で問題を解決する、そしてしているということを確認いたします。単に国の体裁を保つということではなく、堅実かつ安全な投資のためということは、大統領、国というものは、アメリカとメキシコとの国境にあるリオ・グランデ川から南端ウシュアイアまでで構成するラテン

アメリカのビーコン、そして手本として、ブラジル国内で私たちに取り組んでいる進路へと成長していけるようにこの惑星上の特定の業界にアクセスするプラットフォームとして貢献することなのです。投資は、単にここ、我が国からだけ成果を確保するものではなく、むしろ中期的には、この巨大な、ここブラジルで私たちに取り組む方向へと成長するラテンアメリカ全体にアクセスするための強力なプラットフォームになり得るのです。

最後に、大統領閣下、数10年にわたって巨大な単一のロジスティクス・モーダルだけで過ごしてきたことを思い出していただきたいのです。私たちはコンセクションを通じて、徹底した改革を進めています。私たちは鉄道モーダルを構築しており、3年で、マナウスを出発した貨物がウルグアイとアルゼンチンにほど近いポルト・アレグレまで、2、3年前には不可能だった貨物車への1回の積み込みだけで輸送できるようになります。今後3年でブラジルは、このモーダルがブラジル国内、そしてウルグアイとアルゼンチンに接続する内航海運にも拡張され、我が国にとり極めて重要な事業展開分野を回復させるだけでなく、その後には空港が続き、ブラジルは、良いですか投資家の皆様方、それぞれの対策の専門家によると4種類のモーダルの利用が可能になり、企業各社の物流コストは、業績を達成するにあたって、極めて小差なものになる可能性があります。

最後に、ブラジルはビジネスチャンスに満ちているということをお伝えしたいと思いますし、私は、投資を希望し、雇用と所得を生み出そうとするあらゆる人たちにとってボルソナロ政権がパートナーになると結論しておりまして、パウロ・ゲデス経済大臣が言及したように生まれ変わったばかりながらも既に様々な経済指標、これは今日1日を通じて議論されるわけですが、小売業からサービス業まで様々な業界を計測した指標によって、ブラジルが再び経済を成長させる、我が国のGDPを後押しするための条件を整えつつあることを証明しているのです。むしろ私は、2つの重要なデータについて述べたいと思います。ひとつは、ボルソナロ政権がああ魔法の言葉、すなわち信頼を取り戻すために進めてきた取り組みのことです。パウロ・ゲデス経済大臣がおっしゃったように、ブラジル国民から既に信頼を得ています。私たちは今、ブラジルがビジネスチャンスに満ち、真実の、安全で利益率の高い場所だと受け止めている投資家の方々の信頼を獲得したいと希望しています。これは、私たちにとって非常に重要な言葉です。ここでは安全な上にビジネスチャンスが高い収益性を生み出すため、ぜひブラジルへお越しくください。そして私たちブラジル人が得る利益は、雇用から新技術、新しい特許、私たちの社会と経済の発展です。

最後にもうひとつ、ブラジルは今この時点で、経済問題だけでなく、非常に重要な問題についても思考をめぐらせています。すなわち、ブラジルには非常に深刻な治安、とりわけ犯罪発生率に対するこれまでの歴史があるということですが、これについてボルソナロ政権では、大統領をトップとする対策班は既に、暴力犯罪被害による死者数の大幅な低下という成果をあげています。すなわち、ブラジルは2019年上半期にスタッフ、そしてジャイール・ボルソナロ大統領の取り組みにより22.6%、7,000人減を達成いたしました。

ここで話を締めくくるにあたって、ブラジル、より身近で、安全で、ビジネスチャンスに満

ちたこの国を改革する一員になろうとお考えの全ての方々に、参加いただきますよう重ねてご招待申し上げます。ボルソナロ政権の発足後わずか9カ月で、我が国ブラジルは、既により良い状態へと変革しており、また、変革を続けています。あらゆる人に機会を提供するブラジルという国を手を携えて建設するため、皆様をご招待いたします。

皆様に歓迎いたします。ブラジルは、企業とビジネス、さらに何より世界に対する美しい未来のパートナーを求めております。ボルソナロ大統領が率いて方向を変えようとする国、それはブラジル国民だけにとどまらず国際的なパートナーさらにはラテンアメリカの全ての国々に対するひとつのモデルを構築することであり、従って和手割れの使命は、ともに歴史を紡ぐことなのです。

ジャイール・ボルソナロ大統領

紳士淑女の皆様、通貨当局の方々、お早うございます。

我が政権の大臣、とりわけパウロ・ゲデス経済大臣とオニックス・ロレンツォーニ官房長官が話をした後に登壇するのは、荷が重いですね。

手元には29ページのスピーチがあるわけですが、それを破棄することにいたします。皆様に疲れさせることはいたしません。なぜなら私はひとつのチーム、コート入りして試合に勝たなければならない22人の閣僚からなるチームの監督だからです。彼らによる私たちの呼びかけ、さらに何よりも真実を通じて、あなた方が私たちを信頼し、この国が実際に変化したのだと確信していただけるのだと、私は彼らを信頼しなければなりませんし、彼らもまた私を信頼してもらわなくてはなりません。

では、この変化はいつ始まったのでしょうか。始まりはある人が、4年前、聖書の一節、ヨハネによる福音書8章第15節「あなた方は肉によって人を裁くが、私は誰も裁かない」を携えてブラジルを歩き始めた時に始まったのです。私はブラジル中西部、親愛なるテレザ・クリスチーナ農務大臣、疲れを知らず世界を飛び回り何が真実のブラジルであるかを示して歩く彼女が集中的に活動している地域から着手しました。私たちの潜在能力、そして力を合わせて互いに提供できるもの。ブラジル中西部は有権者の密度が、アントニオ・デナリウム知事のロライマ州、豊かではあるが私たちが改正を希望する特定の法令によって苦しめられている同州と同様に低い地域です。そこには、ロライマ州知事の富、州民の富だけが存在するわけではありません。州民には白人と黒人、先住民がおり、とりわけ先住民は、時とともに先住民社会への統合を希望しています。その社会は、実を言えば、豊かな大地の上に築かれた未開なラティフンディウムなのです。私は選挙の公示期間前、仮に私が20年にわたってテクノロジーを携えたロライマ州の王になるならばその経済は日本に並ぶだろうと発言しました。あらゆるものを備えた州なのです。ロライマ州に言及した理由は、そこが、私たちが変革の手法というものを探さなければならないということの好例だからなのです。同州は1日に何10回という停電に悩まされています。同州は今、ベネズエラのグリ発電所により電力が供給されているもののこの発電所は極めて型遅れで整備も行われていないこ

とだけでなく同州向けの送電でも代替する選択肢のない長距離送電線を利用しているため、事実上、火力発電所に依存しています。あそこで私たちは問題を抱えています、では、それはどのような問題だということでしょうか？ 私たちは過去6年にわたって、1本の送電線建設に失敗したために年間12億レアルを無駄にしてきました。そしてこの問題を解決する、あるいは、いつかこの地域で発電するあるいは代替の電力源に投資をするのが良いか分かりませんが、それができれば、同州は、ブラジル国内でふさわしい地位を占めることになるのです。そうなる鍵は全てそこに、親愛なるウィルソン・ミランダ知事のアマゾニア州にあるのです。この機会に私は、アマゾニア州を知らない国外の人たちを招待しようと思います。あなた方は、絶対にやけどをするようなことはありません（笑）。そして結局のところ、多数の新聞とテレビが、事実とは異なる状態を報じているのを知りましょう。ほぼ完全に保全された美しい地域であり、生物多様性と、豊かな鉱物資源、文字通り想像を絶する様々な観光地を備えた地域です。

少し前になりますが、アメリカ人観光客がこう言いました。「ようやくアマゾンを知ることができたから死んでも後悔しない」。この大地はブラジルの遺産です。アマゾンは世界の肺ではありませんし、それは、科学的に証明されています。私たちがウィルソン州知事のアマゾナス州、そして私たちのアマゾン熱帯雨林、私たちのブラジル、アマゾン熱帯雨林に求めるのは、持続的な開発であり、私たち、そして人類のために貢献してもらうことです。このようなブラジルは全くもって驚異です。それは何も私がブラジル人だから言うものではありません。そしてマット・グロッソ州の親愛なるマウロ・メンデス知事のおられるブラジル中西部へ足を向ければ、そこは農業のポテンシャルに満たされているのを目の当たりにします。問題は、いくつかの法令が原因となり改革が容易でないことです。その理由は世界的なアジェンダが環境問題に目を注いでいるからで、私たちは環境の保全を望んでおり、それ以上に、私たちは進歩との調和を望んでいます。そして、ここにあるのは、私たちのもの。私たち全員の利益と私たちのために探查されるべきで、保全されるべきです。そして私はとりわけ、あなた方からの信頼を回復させる、あるいは勝ち取ろうという大統領ですが、耳あたりの良いお話しというものには意味はありません。私たちがどのような存在か、何をしようとしているのか、行動で証明すべきなのです。パウロ・ゲデスという経済人は、ただ経済大臣という以上の存在で、彼は、企画も担えば産業も担い、通商も、労働も担います。彼は4つの省をたばねています。そして私の話に誤りがないようにしています。なぜなら、コートに入って試合をするのは閣僚です。私は、新聞にも賛辞を贈りたいと思います。この日付のエスタード紙で、日曜付のこの表紙は、私にとって非常に喜ばしいこととして発言したことが再現されています。すなわち、「経済はゲデスのお陰で100%完璧、代替案など存在しない」。過去に苦しめられた批判、私自身のキャリア形成、私たち軍の育成が、過去に部分的に親愛なるアントニオ・カルロス・モレッティ・ベルムーデス准将によって行われたという理由で国家統制主義だとされたことは、このシナリオに些かも加担するものではありませんでしたが、エコノミストのパウロ・ゲデスと知己を得たことについて私は、あなた方全員

に対して告白しなければなりません。すなわち、瞬く間に彼は私を説得し、私たちのスローガンは常に何よりもまず真実というものでしたから、私は彼に、もし私が（大統領府に）入るのであればあなたは経済スタッフの中に参画し、その方針もあなたのものだと話しました。パウロ・ゲデスのスタッフに誰も指名しませんでしたし、誰からも政治的な指名は行われませんでした。私は、ここでロベルト・カンポス総裁と対面しました。私たちは中央銀行に独立性を付与する法案を計画しています。この法案が可決した後、良いですかロベルト・カンポス君、既に中央銀行に独立性が与えられていることから、君がさほど大きな違いを感じないと私は確信しています。それは、信頼です。フェルナンド・アゼベード陸軍大将、国防大臣が出席されていますが、現在の問題、すなわち、どう見ても犯罪的、確実に犯罪的な、ブラジル北東部沿岸地域の原油流出に関して、私は彼に対して予防措置を講じるよう電話をする必要はありません。彼は省舎に来て私たちに、それどころか大統領府に来て、講じている対策を示してくれました。私たちは既に監視しており、ピッチのサンプルを分析していました。なぜならあれらはピッチであり、石油そのものではありません。先月の2日からです。このように、このような行動をとる人々、問題に先んじて対処する能力を持った人たちとともに取り組むことは良いことです。この犯罪行為の責任者が誰なのかを早急に見つけるための水晶玉を私たちが持ちえないことは明らかですが、判明したことには善後策を常に講じます。同様に、高気温や、大部分はブラジル国内のメディア、そして国外で何らかの意図を持つメディアから批判を受けたアマゾン地域のいくつかの野焼きにも注意を払っています。彼らの意図とは、地域に対する我が国の主権を侵すことだろうか？ 私たちは国連について謙虚に話し、ブラジルのメディアのいくつかから、厳しい批判を浴びました。しかしながら私は、様々な社会的な背景を持つ人たちと話したことで、ブラジルとは何か、私たちは何者なのか、アマゾン熱帯雨林に関してラオニ・メトクティルだけが発言を独占していた状況にほぼ終止符を打ち、現実的かつ真実の演説ができたと確信しています。私たちはそこへ、農民たち、自身の土地で生産活動を希望する人たち、自身の土地で探鉱事業を行いたいと訴える書簡、動画を届けました。同様に、ここサンパウロで発生した金塊の強奪問題についてもご覧ください。これはどこから来たのでしょうか？ そしてどこへ持ち去られたのでしょうか？ そして現地で奪われた貴重な金塊のその膨大な量は？ 私が共和国大統領だからと言って、そして傍らに非常に有能な連邦警察が存在するとしても、これら全ての因果関係を突き止めることは簡単ではありません。なぜならこの富は、この種の犯罪と同じやり方でブラジルから持ち出され、起こるべくして起こり、それもはるか以前から起こっていたのであり、700kg もの金塊と数 10kg の宝石を輸送するのに何らのセキュリティーも存在しません。しかし私たちは最終的に、ラポーザ・セーラ・ド・スル先住民保護区の境界を定める機会に、先住民が言うところの白人に対して、そして先住民に対して、ロライマ州の彼らに良かれと、この地域の金採掘を合法化することを望んでいます。農民たちはその地域のわずか1%を、米作のために欲しているのです。ロライマは現在、私に誤りがなければ米を輸入しています。私たちは、このマッチングを行う必要があります。ブラジルは、世界に類

を見ない鉱物資源と生物多様性、飲用可能な水、世界には他に例がない自然の豊かさに羨望の眼差しが集まるのに、何も存在しないことになっている巨大な無の空間を保持しているだけの国なのです。我が国にある7か所の湿地帯、素晴らしい海岸線、国立公園の数々。ブラジルは私たち誰もが描く夢の国になるための全ての要素を備えており、私たちはそれをあなた方にもお分けしたいと望んでいます。あなた方、ここにおられる方々は、ブラジルを信じておられます。私たちは、契約と信用、責任、法的裏付けを尊重します。私たちにとって保証は何よりも重要であり、それこそ、私たちが保持したいと希望しているものです。数字があります。中央銀行自身が発表したものです。私は彼に電話を掛けるだけです。中銀は、彼が中銀通貨政策委員会（Copom）で決定した後、何らの介入も受けません。彼は、取り扱うべき問題を理解している人物です。ロベルト・カンポスは100%、中央銀行として発言します。パウロ・ゲデス経済大臣が私に干渉するのは分かりませんが、私は、絶対に、いかなるものにも介入しない（笑）。そして、ブラジルにおいては初めて、我が政権が、有能で閣僚間で協議するという閣僚チームを持つことができたのです。誰か、我が国の科学技術大臣を務める人、我々がマルコス・ポンテス宇宙飛行士の次のステップをご存じでしょうか？ 彼は、誇り高き我々がブラジル空軍（FAB）の空軍士官学校を卒業し、航空技術研究院（ITA）を卒業し、NASAに長期にわたって所属し、南半球で唯一の宇宙飛行士で、限られたリソースしかなかったものの省の本当の改革に取り組んでいます。

ここにいる各大臣に、私は、彼のエピソードをいくらでも話すことができます。オニックス・ロレンツォーニ官房長官への信頼。1日に3回も4回も私と話をします。エルネスト・アラウジョ外務大臣。就任時に多くの批判を浴びましたが、前任者たちとは異なり、彼は常に来訪者にドアを開いています。彼らはベネズエラ問題の解決策を探るという点でヒーローであり、それだけでなく、その他の南方の国々が再びあの人たち、過去にそれらの国々を非常に困難な立場に陥れた人たちの手に渡らないように取り組んでいます。2022年に私たちはこの偉大な国を、南米南部の国がそうなっているように、そしてそういう状況にあるようにしてはなりません。このことは、それらを信じている人たちと、数年前に政権の座についていたあの人たちに対して戻っては来れないのだと示すという私たちひとりひとりの真剣な取り組みにかかっています。得票により戻ってくるのであれば、辛抱がいますが、私たちは敬意を払います。しかし私たちの不作為によって、人々に対してその後ろに待ち受けているのがベネズエラだと人々に示すことに私たちが失敗したために返り咲くことはありません。今日、外遊が日曜から予定されていますが、私がサルバドル市のバラダン・スタジアムに姿を現さない、あるいはカトリック信者なのにカトリック教会のおまつり、つまりドゥルセ・シスターの列聖に参列しないからと言ってマスコミが批判しないことを願います。私たちに既に先約があります。まず、日本の天皇即位式です。それから私たちはサウジアラビア、カタール、アラブ首長国連邦と、親愛なる中国、我が国の最大の貿易相手国に足を運びます。私は、中国問題で過去に批判を受けましたが、選挙は終わりました。今、この巨大なブラジルと呼ばれる船に指示を出しているのは、ジャイール・ボルソナロ提督であり、こ

の船の乗組員である私たちは全員、我らがブラジルに貢献するために取り組まなければなりません。

私がここにいるのは、私があなた方を信じているからで、あなた方がここにいるのはブラジルを信じているからです。あなた方全員に感謝いたします。あなた方の信頼と、そして我が政権の運営方法への態度に感謝します。あなた方に対して私たち、そして閣僚もまた敬意を払っており、私たちはブラジルをあらゆる人にとって良い国にしたいと希望しており、ブラジルが良くなれば世界もまた良くなります。

皆様、ありがとうございました。